

I. 自己PRと志望動機

1. 内定者の人物像

内定者は、採用する理由がある人です。採用する理由は様々なものがあるため、合格者は多様であり、それが官僚の大きな特徴です。今まで出会った官僚や内定者と同じでないと採用されないと思う必要はありません。

逆に言えば、内定が取れなかった人は採用する理由が無かった人です。巷には、「合格順位が低かった」あるいは「東大ではないと内定が取れない」などの噂が流布していますが、これらは全て内定を取れなかった人が後付けの言い訳でしかなく、これらの噂に惑わされないようにして下さい。

内定者は多様であるといっても、共通点は多く見られます。それと同様に内定が取れなかった人にも共通点があります。それをまとめたものが次の表です。

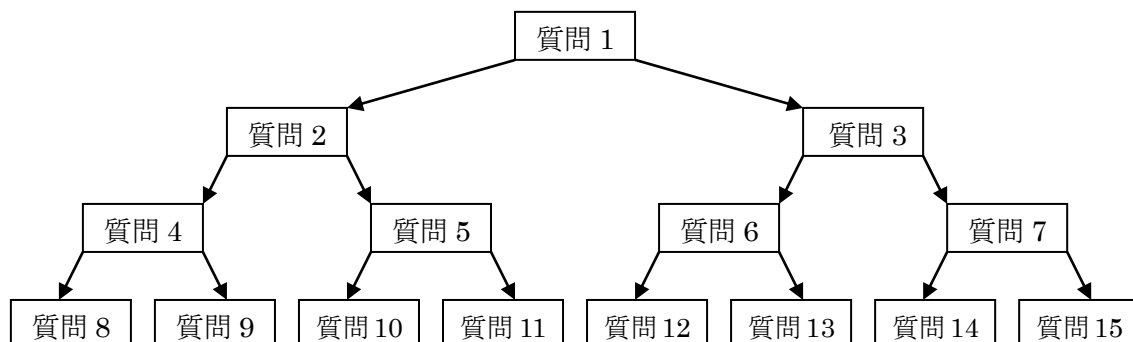
内定が取れる人	内定が取れない人
元気で、よく話す。	あまり話さず、静かである。
官庁訪問を楽しむ。	官庁訪問が苦痛である。
自信があるように見える。	自信が無いように見える。
謙虚である。	自分の意見に固執する。
他の人や組織のために活動する。	自分のために活動する。
リーダーシップがあり、率先して行動する。	人に頼り、誰が行動しているのを待つ。
協調性がある。	独りよがりである。
総合職であることを意識している。	一般職でも良いと思われてしまう。
問題点を抽出し、改善方法を考える。	マスコミのように批判ばかりする。
公務員(行政官)の立場を理解している。	公務員と政治家を勘違いしている。
国家像を持ち、一貫性がある。	個別の問題に注目し、場当たりのである。
深く考える。	直ぐに答えを求める。

勿論、内定者がこれらの全ての資質を持っているわけではありません。しかし、内定者を見ていると、この中の多くの資質を持っている人が内定しています。官庁訪問は、生き残りゲームではありません。選んでもらわなければ内定は獲得できません。これらの資質をアピールできるようにしっかりと準備をしていきましょう。

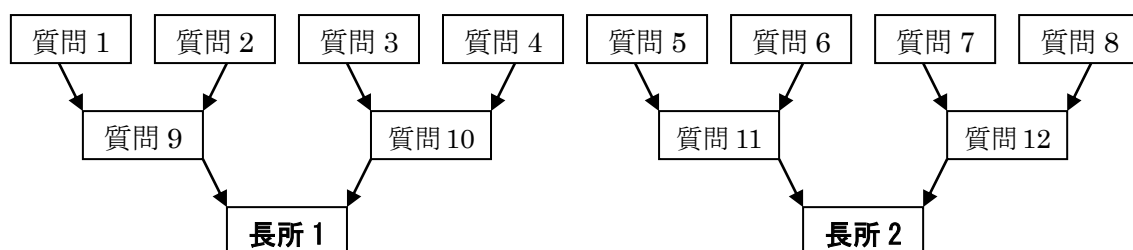
2. 自己PR

(1)面接とは

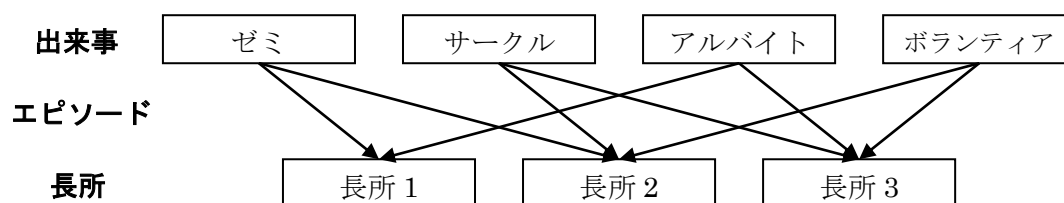
面接に対して下のチャート図のようなイメージを持ち、質問に対する答えによって次の質問内容が変わっていくと考え、全ての質問に対する想定問答を作ろうとする人がいます。



これでは、いつまで経っても面接の準備は終わらないだけでなく、内定を勝ち取ることもできません。面接は下のチャート図のように考え、**受験生が面接はコントロール**すれば、良い評価を得ることができます。



つまり、面接の準備をするとは、**様々な出来事から長所を抽出し、長所と表すエピソードを明確化する作業**であるといえます。簡単にまとめたものが下のチャート図になります。



実際の面接では、出来るだけ**複数の長所をアピール**するように心掛けていきます。さらに**1つの長所は複数のエピソードでサポート**していきましょう。1つの長所を1つのエピソードだけでサポートすると「たまたま」あるいは「偶然」と感じることもあります。そのため、1つの長所を複数のエピソードでサポートすることにより、リアリティーを持たせることが出来ます。また、実際の面接では予定通りに長所をアピールできるとは限りません。1つの長所を複数のエピソードで準備しておけば、予定通りにアピールできなかった長所も、後からアピールすることが可能になります。

(2)自己 PR の方法

①長所

長所は、2つ準備しましょう。1つは**個性を表す長所**であり、もう1つは**組織において発揮される長所**です。

- ・ 個性

具体例を挙げれば、計画性、実行力、分析力、行動力、積極性などです。

- ・ 組織において発揮される長所

キャリア官僚であるならば、組織において発揮される長所は**リーダーシップ**でいたいところです。入省4～5年目には係長になり、組織を運営することが期待されています。入省後にリーダーシップを磨く時間はほとんど無く、先天的に持っていて欲しい資質です。

一言でリーダーシップといっても様々なタイプのリーダー像があります。リーダーというと他の人を引っ張っていくイメージを持つ人が多いと思いますが、それが全てではありません。他の人の意見を聞き、それを取り入れながら、全ての人が納得しながら物事を調整することも立派なリーダーシップです。むしろ引っ張るだけでは、独善的であると感じられることもあります。組織において全てのメンバーが共通の目的を向かって行動することはほとんど無く、何らかの問題点を抱えるものです。そのときに共通の目的を持たせ、その方向に行動を進める方法には様々な方法があります。その1つ1つがリーダーシップであると考えて下さい。

どうしてもリーダーシップに結びつくエピソードが作れないときには、その他の長所にします。それでも組織で発揮されるできる長所は必ず準備しましょう。

②高い評価を得られるエピソードは**優れた5分間のショートムービー**である。

高い評価を得る面接は、まず聞いている人に**映像が浮かんできます**。そのためには、話す内容をできるだけ**具体的**にしていき、5W1Hを意識して面接を進めるようにしていきます。しかし、具体的に話そうとしていくとどうしても時間が長くなってしまいます。そこで、自分の長所を説明するためには必要が無い部分を削除して、時間の調整を行います。

単に映像が浮かべばよいというわけではなく、面接官が良いと感じなければ意味はありません。長所をアピールすることは、自分の良い点だけを並べることではありません。良いと感じる面接には、**落差**があります。問題点があったり、困難な状況からスタートし、各個人の分析や行動、試行錯誤の末、最後には良い結果が得られるという構成をお勧めします。ここで、注意して欲しいのは最後の結果が重要であるわけではないことです。**重要なのは、途中の各個人の行動や分析、試行錯誤の部分**であり、ここで各個人の長所が現れます。

3. 志望動機

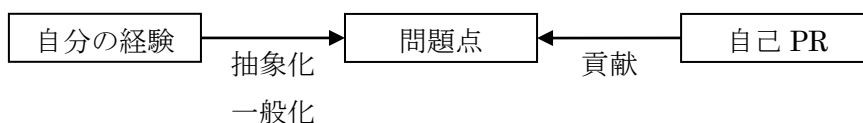
志望動機の多くは、「外交が重要である」というような誰にでも言えるような一般論や、「福祉に興味がある」といった自己中心的なものです。これらの志望動機では、他の人と差別化できず、高い評価を期待することはできません。

志望動機は次のような構成で進めることをお勧めします。

step 1 : 自分の経験で社会の問題に直面する。

step 2 : 問題点を分析し、抽象化や一般化する。

step 3 : 自分の長所を生かして、問題の解決に貢献できることを示す。



つまり、**自己 PR と志望動機は一体のもの**であり、総合的に構成していきます。

実際の面接において、「重要である」と思っていることを「重要である」であると言わないで伝えたり、「興味がある」と思っていることを「興味がある」であると言わないで伝えることができれば、高い評価が得られます。

また、志望動機を話すときには、**国家公務員である必然性やキャリア官僚である必然性**を伝えることも意識して下さい。単に「日本の発展に寄与したい」という志望動機では民間企業でも可能であり、あるいは「地方の発展に寄与したい」という志望動機であれば地方公務員でも可能であり、「治安に興味がある」という志望動機では、現場の警察官や自衛官でも可能になります。さらに、国家公務員である必然性を説明できたとしても、一般職(ノンキャリア)でも可能であると思われるしまうと、評価は下がります。そのため、国家公務員である必然性やキャリア官僚である必然性を意識して志望動機を作るようにして下さい。

また、**自分が経験した問題点を、必ず抽象化・一般化した分析をする**ようにして下さい。最近、問題点をそのまま問題点として捉えてしまい、官庁訪問での評価が下がってしまう人が多いようです。**広く国益の観点から分析**するようにして下さい。

Ⅱ. 官庁訪問

1. 官庁訪問

(1)官庁訪問とは

①官庁訪問スケジュール

官庁訪問は、最終合格発表の翌々日からスタートします。今年は、6月8日に最終合格発表、6月12日から官庁訪問が始まります。

6/5(月)	6/6(火)	6/7(水)	6/8(木)	6/9(金)	6/10(土)	6/11(日)
			最終合格発表			
6/12(月)	6/13(火)	6/14(水)	6/15(木)	6/16(金)	6/17(土)	6/18(日)
第1クール			第2クール			
6/19(月)	6/20(火)	6/21(水)	6/22(木)	6/23(金)	6/24(土)	6/25(日)
第2クール	第3クール		内々定			

官庁訪問のルールには、いくつかのルールがあります。

- ・ **第1クールと第2クールでは、同じ省庁を訪問するときには2日間空けなければなりません。**左の訪問スケジュールは問題ないが、右の訪問スケジュールでは国交省の訪問が問題になります。

	第1日	第2日	第3日
第1クール	経産省	国交省	内閣府
第2クール	経産省	国交省	内閣府

	第1日	第2日	第3日
第1クール	経産省	国交省	内閣府
第2クール	国交省	経産省	内閣府

- ・ **第3クールはリセットされます。**第3クールでは、それまでの訪問履歴と関係無く、どの省庁でも訪問することができます。
- ・ 第3クールは、同じ省庁を2日間連続で訪問してはいけません。

②官庁の難易度ランキング

偏差値等の明確な基準が無いため感覚的なものですが、官庁の難易度ランキングは下の表のようになっています。

A	財務省本省、外務省、警察庁、経産省、総務省自治
B+	金融庁、防衛省
B	総務省自治以外、文部科学省、厚生労働省、農林水産省、国土交通省、環境省
C+	会計検査院、人事院、内閣府、公正取引委員会、法務省、公安調査庁
C	財務省財務局、財務省税関、国税庁

CとC+は第2クール以降から訪問しても内定を貰っている人がいます。官庁訪問の準備を行うときには、第1クールで残念な結果になってしまったときに備え、このランクの官庁の研究をしておくとい良いでしょう。

(2)官庁訪問の準備

①省庁研究

省庁研究は、自分が将来働く所を選ぶため、また合格する確率を上げるためには絶対に必要なことです。しかし、省庁研究を大量にやったからといって合格するわけではありません。

官庁訪問においてよく聞かれることに、面接の最後に「何か質問ありますか？」というものがあります。そのときには2つ以上は質問をしましょう。1つは面接をしていただいた面接官が話した内容に関するものです。これは面接官の話をきちんと聞いていたことと理解力をアピールする効果があります。もう1つは面接官が関連した仕事や部局に関する質問です。この質問は事前に準備することができます。**省庁研究は、各局別に質問を3つ準備することを目安**にして下さい。質問は理解度を測る優れた指標になります。良い質問をすれば、それだけで面接官の評価は上がります。そのため、単に質問をするだけでなく、良い質問をすることを意識してください。

また、省庁研究には、**官庁の共通点と相違点を明確化**することができます。たとえば、総務省行政評価局と会計検査院では、行政の効率化を図るという点では共通ですが、総務省行政評価局では事前的な仕事が多く、会計検査院では事後のチェックという具合です。共通点と相違点を明確化することは、省庁選択の適正を考えるときにも有効な情報になります。

②省庁の選び方：関連性がある省庁を選択

官庁訪問で必ずといってよいほど聞かれる質問のひとつに「他はどここの省庁を訪問していますか？」というものがあります。このときに関連性の無い省庁を並べると、次に必ず「なぜ？」と質問が飛んできます。ここで面接官が納得できる答えが返せれば問題ありませんが、そうでない場合には一貫性が無いととられてしまいます。

また、省庁研究のところで説明したように、各省庁の局別に3つは質問を準備しようといいましたが、メインの省庁が3つとサブの省庁が1つで合計4つの省庁の官庁研究が必要になり、その準備の量だけでも莫大なものになります。このときに、全く関連性が無い省庁ばかりであると各省庁の研究が十分なものにならず、官庁訪問で苦勞することになります。

(3)省庁の特徴

キャリア官僚として求められるものは、内定者の人物像で説明したように共通項があります。ここでは、実物像については、各省庁で特に強く見受けられる点を説明します。

① 財務省

志望動機は、様々な問題点や政策に興味があり、それらを総合的に判断することの重要性を理解し、その能力があることをアピールして下さい。ここで注意すべきなのは、様々な問題や政策に単に興味があるだけでなく、それらを深く掘り下げていることが重要です。

採用される人は、総合的に高い能力を求められます。1つの長所で押すだけでなく、複数の長所をアピールするようにして下さい。また、財務省の役割を考えると、広い視野を持ち、バランスが良いことも重要です。

② 経済産業省

個人的な印象ですが、経済産業省の役人自身が「経済産業省の存在意義が低下している」あるいは「将来的には経済産業省の存在意義が低下していく」という危機感を抱いているように感じています。そのため、従来の仕事ができるだけでなく、新しい仕事を造れるように人材を求めています。高いコミュニケーション能力や行動力、分析力をアピールするようにして下さい。

志望動機は、単に「経済発展に寄与したい」だけでは他の受験生との差別化を図ることが難しくなります。エネルギーや環境、中小企業など具体的な分野を掘り下げ、自らの経験と関連付けて、話せるようにしておきましょう。

③ 金融庁

金融は、相反する2つの機能を同時に持ち合わせる難しい分野です。1つは金融の安定化であり、もう1つはリスクを取り、ベンチャー企業などの新しい産業分野に資金を供給することです。この2つの機能を掘り下げて考えておかないと、高い評価を得ることは難しくなります。数年前は面接の最後に「言っていることが矛盾している」と言われ、評価を下げてしまう人が多く見受けられました。金融庁の政策を調べるだけでなく、金融自体を調べえていくようにして下さい。また、金融について詳しく準備をしても、「金融が得意である」とアピールしないほうが得策です。どの省庁でも同じですが、金融庁の人は特に自分が担当している分野については非常に詳しく、少しぐらい勉強しても知識では太刀打ちできません。面接では、その中で知識を吸収し、次の面接に生かすことを考えて下さい。

志望動機は、経済産業省と同様に漠然と「金融に興味がある」では他の人と差別化を図ることは難しくなります。自分の経験などを踏まえ、志望動機を話せるようにしておきましょう。

求められている人材は、以前は頭が良い人を高く評価する傾向がありました。最近では、政策官庁であると同時に執行官庁でもあることから、行動力がある人も高く評価をしているようです。

④ 総務省(情報通信)

総務省の情報通信を官庁訪問する人は、情報通信の分野が単に有望な1つの産業だけではなく、社会的なインフラとしての重要性、それと関連して波及効果の大きさについて話せるようにしておきましょう。

政策面や情報通信の重要性では分野が限られているために、他の人との差別化が難しくなります。インフラの重要性をアピールしても、他の人との差別化や他の省庁との差別化が難しくなります。学業で関連することがあれば、積極的にアピールして下さい。

政策研究や自分の経験では差別化が難しい省庁なので、自己PRが大きなウエイトを占める可能性が高くなります。政策面や志望動機がまとまっていることを前提条件に、自己PRを作りこんで、官庁訪問に臨んで下さい。

⑤ 農林水産省

農林水産省は、2つのグループに分けることができます。1つは伝統的なグループで「農家は社会的な弱者であり、保護する必要がある」とグループです。もう1つのグループは、「農業も1つの産業であり、効率化を進めるべきである」とするグループです。以前は前者の伝統的なグループが政治と密接な関係を保ち主流派でしたが、最近の政策の変遷を見ていると後者のグループが主流派になりつつあるようです。政策について話をするときに、この流れを理解して話すようにして下さい。また、政策研究を行うときに、金融庁と同様に単に農林水産省の政策を調べるのではなく、農業を中心に林業や水産業自体も調べておきましょう。その際に注意をすべきことは、地域や生産物などに注目して、分類をして考えることが重要です。さらに、農業・林業・水産業について調べただけでなく、環境などの波及効果にも留意して、話せるようにして下さい。

農林水産省は、政策面よりもその人自体の魅力を重視しているように感じています。ほとんど省庁研究をせずに、農林水産省に官庁訪問をして、高い評価を得た人もいます。政策研究を疎かにして良いという訳では当然ありませんが、自己PRに自信が無い人は官庁訪問までに自己PRの強化を擦ることをお勧めします。

⑥ 環境省

「環境は重要である」という言葉は誰でも使うことができます。そのため、それだけでは、他の人との差別化を図ることはできません。内定者や他の省庁に行ってしまいましたが環境省で高い評価を得た人は、必ずと言って良いほど環境に関連する自分の経験を持っています。具体的には、ゼミの内容が環境関連であったり、環境保護の NGO 等での活動です。

求めている人材の資質に他省庁との大きな違いはありませんが、環境問題に対する思いは強い人が多いと感じています。

⑦ 財務省財務局、国税庁、財務省関税局(税関)

他の省庁と比較をすると、国税庁や財務省関税局は省庁研究の量が少なく、財務省財務局も含めて採用は人物重視の傾向が強い省庁です。第 2 クールから訪問しても採用される人も多く、内定が取りやすい省庁であるといえます。しかし、内定が取りやすいと舐めてかかり省庁研究を行わずに行くと、当然のごとく高い評価を得ることはできません。省庁研究を行い、志望動機を準備して、官庁訪問に行くようにして下さい。